

令和 4 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究B
校園コード（代表者校園の市費コード）
721642
選定番号
229

代表者	校 園 名：	大阪市立南港桜小学校
	校園長名：	稲谷 哲也
	電 話：	06 - 6613-0160
	事務職員名：	木谷 友亮
申請者	校 園 名：	大阪市立南港桜小学校
	職 名・名前：	教頭・井後雅之
	電 話：	06-6613-0160

令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和3年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	文字を大切にし、学んだことを日常生活に生かそうとする子どもの育成			
3	研究目的	<p>国語科書写の学習は、学習指導要領において「知識及び技能」に位置付けられており、我が国の大切な文化として、身に付けることができるよう指導していくことが大切である。また、「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」の領域の指導と密接に関連している。「書くこと」では、日記や手紙を書いたり、行事の案内やお礼の文章を書いたりするなどの学習活動に生かす。そこから、学習した内容をノートに書いたり、調べたことを模造紙にまとめたり、他の教科・領域の学習や日常生活にも広げたい。文字を大切にすることは、文字を正しく整えて書くことができるようにすることに加えて、手書きの文字に親しみをもち、相手を意識して文字を読みやすく、ていねいに書いたりすることである。</p> <p>文字を大切にする子どもを育てるために、自ら課題をもち意欲的に学習に取り組もうとする力を身に付け、グループで話し合って自分の課題を見つけたり、アドバイスすることで課題を解決しようとする力を重点的に考えていきたい。</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSコシッパ 9.5ポイント）</p> <p>書写の授業をどうすれば取り組んでもらえるか研究を進めた。授業の流れや基礎・基本が分かるように伝達するための資料の作成、実践事例の作成とwaku x 2.com-beeへの資料の掲載をおこなった。</p> <p>【書写教育についての研修】</p> <p>○横浜国立大学教授</p> <p>（１）書写授業について指導案検討（令和3年11月）</p> <p>（２）総合研究発表会指導講評及び書写授業について（令和4年2月）</p> <p>○全日本書写書道教育研究会</p> <p>（３）全日本書写書道教育研究会に参加し、先進的な取組について学んだ（令和4年2月）</p> <p>【書写実技研修】</p> <p>○奈良教育大学講師</p> <p>（４）文字の成り立ち・永字八法（令和3年11月）</p> <p>（５）賞状・熨斗・立て看板の書き方（令和3年12月）</p> <p>（６）篆刻「自分の名前の印を作ろう」（令和4年2月）</p> <p>教員が書写への苦手意識を軽減・書写で学んだ力を日常生活に活用する方法を学ぶための実技研修を行った。</p> <p>今年度は特に低学年の水書用筆を用いた指導の実践を行い、水書用筆の効果的な活用について広めた。書写用語を用いて話し合い活動を行い、主体的・対話的で深い学びにつなげることができた。</p>			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。				
		日程	令和 4 年 2 月 4 日		参加者数	約 400 名
		場所	大阪市立南港桜小学校			
		備考				
6	成果・課題	大阪府教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。				
		【見込まれる成果 1】 文字を書くときの姿勢、正しい鉛筆の持ち方をし、文字を正しく・整えて書くことを意識することができる児童の育成をめざす。 《検証方法》 学習シートの振り返りで、「鉛筆の持ち方と姿勢に気を付けて書くことができた」や「本時課題に気を付けて書くことができた」などの肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 〔検証結果と考察〕 「鉛筆の持ち方と姿勢に気を付けて書くことができた」、「本時課題に気を付けて書くことができた」の肯定的な回答をする児童の割合が100%だった。しかし、その授業中はできても、普段ノートなど文字を書く時に継続することは難しいように感じた。鉛筆を持つ時に声かけをし、定着するまで定期的な指導が必要であるとする。				
		【見込まれる成果 2】 文字を大切にすることができる。自分の手書きの文字に親しみをもち、相手を意識して文字を読みやすく、ていねいに書くことができる児童の育成をめざす。 《検証方法》 アンケート「自分の書く字が好きですか」の項目で年度始めと比較し、肯定的な回答を5ポイント上昇させる。「相手を意識して文字を読みやすく、ていねいに書いていますか」の項目で年度始めと比較し、肯定的な回答を5ポイント上昇させる。 〔検証結果と考察〕 「自分の書く字が好き」と回答する児童は、年度始め59%だった。本研究がめざす、文字を大切にできる児童の育成のため研究を行ってきた。2月末現在は72%と上昇した。また、「相手を意識して、ていねいに書いている」と回答する児童は、年度始め87%から、92%へと上昇した。普段ノートに書く文字は、後で自分が見返すだけという意識が児童にある。手紙や新聞・ポスターなど、読む相手を意識した活動を取り入れることで、文字を大切にしようと意識が高まった。				
		【見込まれる成果 3】 書写で身に付けた力を他の教科・領域の学習や日常生活にも広げることができる児童の育成をめざす。 《検証方法》 アンケート「書写で身に付けた力を他の学習に生かせましたか」の項目で年度始めと比較し、肯定的な回答を5ポイント上昇させる。 〔検証結果と考察〕 「書写で身に付けた力を他の学習に生かした」と回答する児童の割合が、年度始めは70%だった。2月末には82%に上昇した。他教科においてもノートを書く際や委員会・係活動のポスター作り、新聞作り等、文字を書く機会に書写で学んだこと生かせたという声が聞かれた。多くの児童が他教科や日常生活でも書写で学んだことを生かそうとする姿が見られた。				

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】 本研究の研究を新任研修や指導技術講座、研究発表会などで広めることにより、教員の指導力向上につながる。</p> <p>《検証方法》 研修会に参加した教員向けのアンケートで「本日の研修に満足していますか」の項目で肯定的な回答をする参加者の割合を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 「本日の研修に満足した」と回答する参加者の割合が100%だった。書写の研究授業を見たのが初めてという教員が多く、「授業の組み立てを考える際に生かそうと思った。」「改めて基本が大事だと思った。」という声が聞かれた。今後も広め、教員の指導力向上につなげたい。</p> <p>【見込まれる成果5】 書写学習の基礎・基本や系統性を意識した学習指導や書写用語、さらに、ICT機器を活用した、書写学習の授業の展開（誰でもできる書写授業）や水書用筆を用いた指導法や教材・教具の活用方法もwaku×2.com-bee(大阪市の授業のスタンダード)に掲載することで、教員の指導力向上につながる。</p> <p>《検証方法》 アンケート項目「水書用筆を用いた指導は有効」の割合を90%、「校内で水書用筆を用いた指導を行った」を年度始めと比較し、5ポイント上昇させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕 研修の参加者からは「水書用筆を用いた指導は有効」との問いに100%の有効だという回答が得られた。しかし、実際に「校内で水書用筆を用いた指導を行った」と回答する学校は半数にとどまった。水書用筆を用いた指導案が少なく、どう指導してよいか分からないという教員が多かった。今後も取組や授業実践報告などを広めていけるよう取り組んでいきたい。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>＜成果＞ 教師が本時の課題（本時で指導したいポイント）を意識して指導することで、児童一人ひとりが自分の書いた文字をどうすればよいか考え、書写用語を使って話し合うことができた。授業の始めに試し書きを行い、終わりにまとめ書き（清書）を行うことにより、自分の1時間での成長を感じられ、自分で意識して文字を書く際に気を付けるようになった。文字を書くことの楽しさを感じる児童が増えたことにより、読みやすく、丁寧に書くことができるようになった。また、ノートに書く文字に変化がみられた。書写で身に付けた力が、他教科のノート作りや、新聞、日記などに生かすことができ、書くことが苦にならず、創意工夫されている。</p> <p>＜課題＞ アンケートで、書写の授業が嫌いな児童に理由を聞くと、「用意の準備や片付けに時間がかかってしまうから」という理由が大半を占めた。準備・片付けを分担するなどし、時間の短縮を図っているが、それでも面倒に思う児童もいる。低学年で勧められている水書用筆を使用した指導を中学年や高学年で行うことも、児童の準備・片付けの簡略化、教員の軽減にもなるのではないかと考え、今後の研究につなげたい。</p> <p>＜代表校園長の総評＞ 今回、コロナ禍でオンラインになってしまったが、多くの人に研究発表を見ていただくことができた。参加者からは、「これまでは、お手本を見て綺麗に書かせることだけを意識してきたが、自分の文字をどうすれば整えることができるかを意識させたい」「書写の授業の流れがよく分かった。」などと多くの好評を得た。文字を書くことは書写の学習にとどまらず、どの教科にも必要な力となってくる。また、生活の中においても手紙を書くなど、文字を通して相手に気持ちを届ける際に大切なものとなってくる。本研究がめざす「文字を大切にし、学んだことを日常生活に生かそうとする子どもの育成」を今後も研究し、一人でも多くの児童、そして教師が文字を書くことを厭わないようになってもらえることを願う。</p>
---	-------	---